

第 571 回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和 8 年 7 月 1 日（水）午前11時より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8 名

○出席委員数 7 名

○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

林 新一郎 委員長

井上 裕子 副委員長

新芝 正秀 委員

笹本 正治 委員

中谷 富美子 委員

中山 潔 委員

南澤 光弥 委員

○欠席委員の氏名（敬称略）

樋代 章平 委員

○放送事業者側出席者名

須垣 有司 （代表取締役社長）

早川 英治 （取締役 報道制作・デジタル推進担当）

小林 修 （取締役 編成業務・放送番組審議会担当）

畠田 哲也 （編成業務局次長 兼 放送番組審議会事務局長）

手塚 かおり （編成業務局次長 兼 編成部長 兼 視聴者室長）

黒岩 祐治 （報道制作局制作部長 兼 デジタルメディア部長）

駒津 翔平 （報道制作局制作部ディレクター）

4. 議題

（1）番組審議

『雪上に刻んだ軌跡 キング・オブ・スキー 渡部暁斗』

（令和 8 年 5 月 10 日（日）午後 2 時～ 2 時 55 分放送）

（2）視聴者対応報告（令和 8 年 6 月分）

（3）その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

主な意見・感想

- ・ 渡部暁斗選手の人間性や哲学、競技人生の重みがよく伝わる番組であり、長野県を代表するアスリートを丁寧に取り上げた点に大きな価値があった。
- ・ 現役時代から多くを語る印象のなかった渡部選手が、家族や私生活を含めて長時間にわたり率直に語っていた点が印象的であった。
- ・ 武井壮氏の起用については、アスリート同士だからこそ引き出せた本音や自然な会話があり、リラックスした雰囲気づくりに効果があった。
- ・ 武井氏の言葉遣いや振る舞い、スタジオ内の笑い声については、違和感を覚えた。
- ・ スタジオ収録やオスロでの歩きながらのインタビュー、部屋や買い物の場面などを通じて、渡部選手の飾らない人柄や素顔がよく伝わった。
- ・ ワールドカップ最終戦後の現地の歓声や拍手、周囲の称賛の様子から、渡部選手が世界でいかに愛され、敬意を集めていたかがよく分かった。
- ・ オリンピック 6 大会連続出場、ワールドカップ 303 戦など、長年にわたり第一線で活躍した実績の重みが改めて伝わった。
- ・ 「季節外れの桜を咲かせたかった」など、渡部選手の言葉の一つ一つに人柄や生き

方、価値観が表れており、深く心に残った。

- ・ 競技人生の背景として、日々どのようなトレーニングを積み、どのような工夫や身体との向き合い方をしてきたのか、さらに踏み込んで描いてほしかった。
- ・ 妻や家族、コーチ、弟など周囲の人物の視点や証言がもう少し加われば、人物像や競技人生にさらに厚みが出たのではないか。
- ・ 白馬村への思い、ノルディック複合の将来、五輪競技からの除外に関する問題意識、引退後の展望といった終盤の話題は、もう少し掘り下げてよかった。
- ・ 全国放送にも耐えうる内容であり、より長尺の番組として再構成し、広く発信してほしい作品。
- ・ テロップに「去年6月」「今年3月」ではなく「何年何月」と明記してほしい。

（2）視聴者対応報告（令和8年5月分）

資料に基づき、令和8年5月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

（3）その他

配布資料

- ・ 第570回番組審議会議事録
- ・ 視聴者対応報告資料（令和8年6月分）
- ・ 番組モニターレポート

『雪上に刻んだ軌跡 キング・オブ・スキー 渡部暁斗』

- ・次回審議番組DVD

『NBSフォーカス∞信州 盆の中、つなぐ命 ～小布施町の盆栽作家～』

(令和8年6月12日(金)午後7時～7時57分放送)

- ・次回審議番組資料
- ・BPO報告(No. 291)
- ・民間放送ニューズレター(第2252号)
- ・民放連放送基準解説書(2024年版)

以 上